



法学部講演会

# 米中間選挙を振り返って —今後の日米関係の展望—

日時：2018年12月20日(木) 2時限(11時15分~12時45分)

場所：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス B217 (B号館2階)

講師：**簀原 俊洋** 氏 (みのはら としひろ) 神戸大学大学院法学研究科 教授

※一般住民の方の聴講を歓迎します(事前申込不要・参加費無料)

2018年11月6日の米中間選挙の結果により、下院においてトランプ大統領率いる共和党の議席が過半数に達しないことになり、来年1月より連邦議会では「ねじれ」が生じます。

下院には行政府に対して厳しいチェック機能を働かせる重要な委員会が数多く存在します。そのため、民主党がトランプ大統領の納税問題や、ビジネスと大統領権限に関する「利益相反」の疑惑への追及を強めるのは必至であり、2020年大統領選に向けて米国の分断はさらに深まるのではないかと見られています。

「分断されたアメリカ」を一つにまとめるために、民主党と考えに大きな隔たりがない対中国政策においてトランプ大統領がより厳しい態度で臨めば、日本も無関心ではられません。

以上を踏まえ、この度の米中間選挙を振り返りつつ、今後のアメリカ政治および日米関係の展望を、国際政治・安全保障がご専門の簀原俊洋・神戸大学教授がお話していただきます。

■ 講師プロフィール： 簀原俊洋 (みのはら としひろ)

1971年生まれ 米国カリフォルニア州出身。

1992年にカリフォルニア大学デイヴィス校を卒業し、ユニオン・バンクの勤務の後、1998年神戸大学政治学博士。

1999年より神戸大学法学部助教授。ハーバード大学客員研究員、カリフォルニア大学アーバイン校客員教授、オックスフォード大学客員フェロー及びライデン大学客員教授を経て2007年より神戸大学大学院法学研究科教授。

2017年9月から2018年4月まで、台湾中央研究院客員教授。

著書には、『排日移民法と日米関係—「埴原書簡」の真相とその「重大なる結果」』(岩波書店、2002年) (アメリカ学会清水博賞受賞) などがある。

主催：神戸学院大学法学部

問合わせ先：神戸学院大学准教授 荒島千鶴

法学部長室 TEL 078-974-4543 FAX 078-974-4602